

これは福岡県筑後地域における、久留米絣をルーツに持つ繊維産地の  
長期ビジョンとミッションを掲げ、行動指針を示した冊子です。



久留米絣広域未来ビジョン



「産地=工業」から  
↓  
「産地=文化」へ

なぜビジョンが必要？

## 久留米絣ならではの価値を磨く

高度経済成長期、つくれば売れていく需要過多の時代には久留米絣産地は「産地=工業」として生産量を増やすことが求められてきました。しかし、安い人件費と原材料を求め、他産地の生産拠点の多くが海外に移行した今、私たちはどうすべきでしょうか？久留米絣産地のアイデンティティをもう一度見つめ直し、その価値を「産地=文化」へと昇華すべきだと考えます。文化は短期間では形成できません。歴史ある土地はそれ自体が財産であり、誇りを持ちながら革新していくべきです。久留米絣産地は「ネイティブテキスタイル」というビジョンを掲げ、未来に向けて歩み出します。

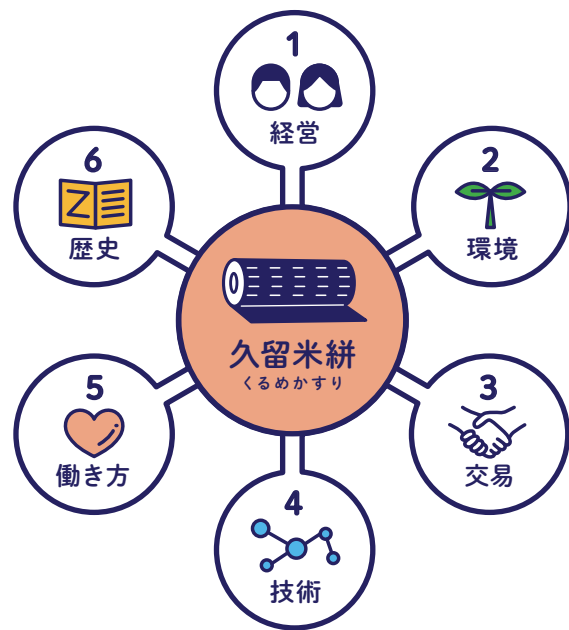


久留米絣のアイデンティティを未来へつなぐ

大事なキーワード

## ネイティブテキスタイルとは何？

ネイティブという言葉は「先住民・在来種・母語」を意味し、かみ砕くと「土地独自の固有性」を表します。絣はインド発祥で、海外ではikat(イカット)と呼ばれています。日本には1400年前後に絣が琉球王国に入り、本土に伝搬しました。久留米絣は1800年に井上伝が発明し、200有余年続いてきました。久留米絣はもともと手作業で行っていた「くくり」の工程を自動化し、地方問屋が都市部へ売り伝え、今までつないできました。私たちはこの歴史と技術を現代生活に合わせて更新し、未来の担い手に渡すべく文化的な価値を高めていきます。



短期ではなく長期目線で

実行する際の行動指針

## 6つの未来アクション!

未来を見据えて6つの行動指針を示します。1つ目は「産地経営」。組合・行政一体となって経営視点で産地を運営します。2つ目は「環境」。SDGsを踏まえながら持続可能な生産・ブランド開発を行います。3つ目は「交易」。世界の絣産地、そして他産業とも交流・交易を行います。4つ目は「技術」。くくりを自動化したように、時代に合わせて技術革新を行います。5つ目は「働き方」。布を織るだけでなく生活環境・労働環境を良くしていきます。6つ目は「歴史」。200有余年の歴史・デザインを見つめ直し未来へつなぎます。



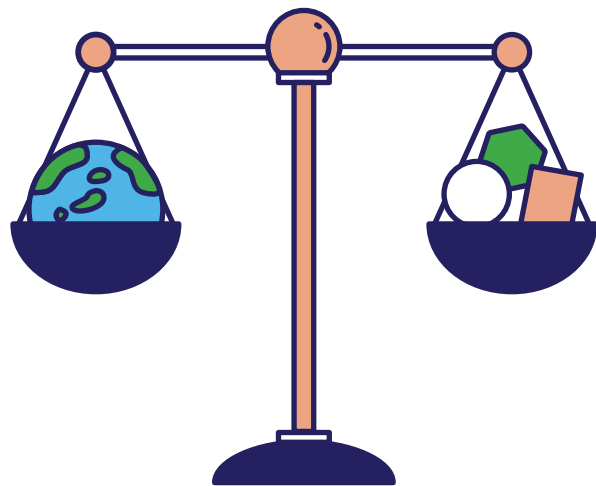
次世代のために水を撒こう

01 — 経営

## 長期目線での産地経営

産地の組合や行政は長年「つくる」という行為による量の担保、質の向上を目指してきました。しかし、産地が縮小してきている現在、その役割は変わっていくべきです。「つくる」ことは当然ですが、「歴史を解釈し、未来へつなぐ」「新しいタイプの起業家を生み出す」「テーマ性を持った産地ブランドを目指す」など、今後は産地経営の視点が不可欠です。スペインの地方都市であるサンセバスチャンが美食の都と呼ばれるように、この筑後の地をテキスタイルのメッカにするべく、長期目線で産地に水を撒き、小さな芽を育て大きくしていきます。

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 産地経営としての組合運営   | <input type="checkbox"/> 産地経営人材の育成と誘致    |
| <input type="checkbox"/> 各織元のテーマブランド化支援 | <input type="checkbox"/> テキスタイル起業家の育成と誘致 |



環境にもつくる人にも配慮したものづくり

02 — 環境

×××  
 サステイナブルな  
 ものづくり推進と環境配慮  
 ×××

2015年の国連サミットで採択された、持続可能な開発目標・SDGs (Sustainable Development Goals)。ものづくりの現場でも素材や製造プロセスにおいて、働く人や環境への一層の配慮が求められています。世界のどこかで行われていることではなく、自分ごととして環境問題に取り組むこと。そんなサステイナブルなものづくりをする産地は、社会的信用も高まるはず。この土地で長年続けてきた自然由来の藍による染色や、コットンやハギレのリサイクルの仕組みづくりなどにチャレンジし、ソーシャルブランドとしての地位を固めます。

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 藍染のリブランディング          | <input type="checkbox"/> オーガニック素材・環境適合素材の活用 |
| <input type="checkbox"/> 残反・残糸・くくり糸など端材・廃材の活用 | <input type="checkbox"/> 環境に配慮したものづくりの勉強と実践 |

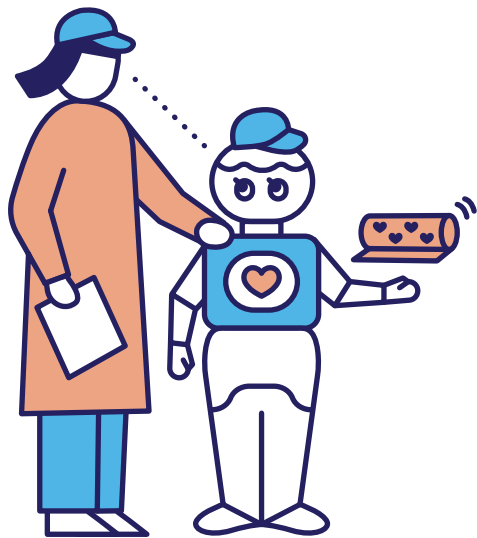


他産地と交流し、自分たちも深める

## 世界の絣産地・他産業産地と交流

2つの交流を行います。まず1つ目は世界の絣産地との交流。インドで発祥した絣(ikat)技術は、日本では沖縄、アジアではインド、インドネシアなどに現存し、中南米ではメキシコやグアテマラに存在します。絣の現在の状況や、未来へのつなぎ方、更新の仕方などの情報を交換します。2つ目は、テキスタイル、絣に限らない他の産地との交流です。業種が違えど「産地」として共通点はあるはずです。他産地の先駆的な事例を勉強したり、悩みや課題、解決策を共有したりすることで、産地経営の視点を養っていきたいと思います。

- 世界・日本の絣産地との交流
- 他業種の産地・組合との意見交換
- 大学・研究機関との連帯強化
- 他産地への交換留学制度構築



大学や専門家と連帯し技術開発を行う

## 200年で培った技術と 最新テクノロジーの融合

井上傳が久留米絁を考案して200有余年。いくつもの技術革新を行いながら、久留米絁の産地は続いてきています。中でも大きなできごとは「くくりの自動化」と「自動織機による絁の実現」の2つでしょう。たて糸もよこ糸も柄を合わせながら織る「たてよこ絁」を織れるのは、世界的にも沖縄、久留米、インドネシア、インド、フィリピンだけだと言われています。しかも、他産地は手仕事のままですが、久留米は機械でそれを実現しているのです。この系譜を引き継ぎ、今後はAIや最先端技術と組み合わせながら、技術革新をいくつも起こしていきたいと思います。

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> くくり機械のアップデート | <input type="checkbox"/> 先端素材・技術へのチャレンジ  |
| <input type="checkbox"/> 設備投資の支援      | <input type="checkbox"/> つくりてが実験できるラボの開設 |





働きたくなる、暮らしたくなる産地へ

## ×× 地域コミュニティとの関わりと 働く環境の整備 ××

今後、テキスタイルに関わる優秀な人材に集まってもらうためには、布を淡々とつくる仕事だけでは不十分だと考えます。常に思考し、クリエイティブに楽しく過ごすことができる環境が必要なのではないのでしょうか。工場内の環境を良くすることはもちろん、地域コミュニティに参加できるようにしたり、同年代で議論できる場をつくったり、他業種の方々と交流できたりと、その土地で過ごす意味を模索しながら、産地として環境を整えていくことが求められているはずです。未来は若者のもの。一緒に未来の働き方・暮らし方を考えましょう。

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 移住者のための衣食住の情報整備と発信 | <input type="checkbox"/> 求人情報や物件情報の整備と発信 |
| <input type="checkbox"/> 働く環境の整備と向上         | <input type="checkbox"/> 暮らしとコミュニティの質の向上 |



歴史をひもとき、未来を織りなす

## デザインアーカイブと テキスタイルミュージアム構想

この200年間、久留米絣は様々なデザインと工夫を生み出してきました。しかしながら、そのデザインはアーカイブ化がきちんと行われていなかったり、捨てられたりしています。デザインだけでなく、この積み上げてきた歴史的財産をもう一度整理すべきです。その上で活用を図りましょう。久留米絣のデザインアーカイブ、海外の絣やテキスタイルの資料、最新の繊維や技術などに触れ、実験できるラボのような施設を思い描き、テキスタイルミュージアム構想をスタートします。ネイティブテキスタイルの未来のために。

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 久留米絣のデザインアーカイブ  | <input type="checkbox"/> 歴史的深掘と研究(ikat文脈含む) |
| <input type="checkbox"/> 歴史性を踏まえた作品保存と開発 | <input type="checkbox"/> 他産地の事例収集           |